

農委だより

第26号

2014

12



1 牧草の裁断作業や試料(サンプリング)を行う作業用ハウス内
 2 焼却灰が埋立てられている東山清掃センター最終処分場
 3 1の作業用ハウス内での牧草の裁断作業
 4 焼却等の処理工程を菊池センター所長より説明

農業委員会管内視察 焼却処理を確認 大東・東山 清掃センター

一関市農業委員会では、10月27日、利用自粛牧草の焼却が行われている大東町の大東清掃センターなどを訪れ、搬入から保管、焼却、埋め立てまでの状況を視察しました。

東京電力福島第一原発事故で生じた利用自粛牧草については、本年5月から一般ごみと混ぜながら焼却が行われており、焼却灰は大東町の東山清掃センター最終処分場に埋め立てられています。

今回の視察は、農業委員会の事業計画の研修の一環として実施したもので、伊藤会長ほか35名の農業委員と市農林部関係職員が参加し、大東、東山両清掃センターを訪れました。

大東清掃センターでは菊池覚一関地区広域行政組合大東清掃センター所長より、搬入から保管、焼却までの一連の流れの説明を受けました。その後、同所長の案内で搬入された牧草の保管状況、開封された牧草を焼却するため裁断する工程、放射性物質濃度の測定などを視察しました。

東山清掃センターでは、特殊なシートを幾層にも使用することで流出を防止している埋め立ての状況を視察しました。

委員からは、施設で作業する職員の健康管理、焼却処理できる量などの質問が出されました。

焼却灰や周辺の空間線量などが一定量を超えた場合には、焼却を中止する基準が設けられていること、施設内では十数か所の線量を定期的に測定しているが基準値の半分以下であること、また、2つの炉を稼働させれば、80トン焼却処理が可能であるが、利用自粛牧草については、1日あたり5トンを最大の処理量としていること等、菊池所長からは、「中止基準を遵守しながら、安全・安心な処理を行っています」との説明を受けました。伊藤会長は、「地域のご理解により焼却が行われています。何よりも安全をしっかり守り、無事に焼却が終了されることを願います。」と話していました。

花泉「日形営農組合」
地域農業を守る



採種用タマネギ母球栽培圃場での皆さん

北上川沿いの堤防、県道32号線から、大規模区画整備された農地が広がる風景に、思わず車の速度を緩めて見入ってしまう日形地区。

圃場整備事業が、平成28年度完了予定の中、今年8月には、日形営農組合(千葉範文組合長)が設立され、農地中間管理事業を導入し、効率的な農地利用の取り組みを進めていくことで、農地105.3haを担い手管理地、転作作業委託、畑作業の4つのエリアに分け、農地利用調整します

が、今年度は、畑作業エリアの一部で、採種用タマネギ母球栽培に取り組んでいます。

千葉組合長は、「担い手を含め、急速な高齢化のなか、5年後10年後、果たして農業者はいるのか。長い年月をかけ整備した農地を無駄にはしない。若い力をどう活かすか、人づくりから農業を守り、地域を守りたい」と、将来に思いをはせ、今何をなすべきなのか、地域への熱い思いを話していました。

合同事業「園芸研修」を通じて

家庭の中での女性として、地域に支えられての女性農業委員として、それぞれの「女性」の役割のなかで、奮闘の毎日です。縁あって磐清水へ嫁ぎ、四十六年余りの歳月は、風呂敷に包めぬほどの思い出と苦楽。

千厩町磐清水地区では、自治会事業の一環として、年間を通じて家庭野菜の管理・生育・病害虫対策・保存方法等の研修を行いました。

講師は、当自治会長さん自らが務めたこともあり研修会場はいつも満員で和気あいあい、県職時代に専門とした園芸のノウハウは、稲作研修へと広がり、又、べと病・さび病・黒斑病・黄斑病・葉斑病など知っていたはずの病気についても再確認する機会となりました。

この研修は、男性中心の産業部と女性部との合同事業として行ったものです。地域協働や男女共同参画が推進される今日、地域での役割や家庭での役割というものが、「任せる」から「交わる」へと、私が嫁いだ頃にはない形に変わってきています。横との交わりも大切に、有意義な事業を通して地域の皆さんとさらに前進していきたいです。投稿 農業委員 千葉孝子さん

農地パトロールを実施

本年度の農地パトロールを農業委員及び事務局職員、各支所担当者で8月から10月にかけて26日間実施しました。対象は、



市内全域の農地ですが特に後継者等が無く草刈等の管理がされていない農地や山林原野化し付けがでなくなつた農地について調査しました。各地域ごとに班編成し、農地利用状況調査と荒廃農地調査の補完調査を併せ、2,540筆、323haを確認するとともに、周辺農地の状況も確認しました。その結果、前回調査から改善した農地が、116ha、荒廃農地と判断した農地の内、簡易な作業で耕作管理が可能と判断した農地が86ha、すでに山林・原野化して農地への復元が困難と判断した農地が121haとなりました。今後は耕作者等の意向を把握し、耕作の再開や農地中間管理機構等への貸付等、意向に沿った農地の利用を進めることとなります。

農業施策の充実を 市へ建議書を提出

10月28日、一関市農業委員会では、伊藤公夫会長ほか7名が市役所を訪問し、平山副市長に「平成26年度一関市の農業・農村振興施策に関する建議書」を提出しました。この建議書は、各農業委員の意見・要望等を市の農業施策へ反映されるよう農政専門委員会で取りまとめ農業委員会総会で決定されたものです。

主な要望事項は、原発事故による放射能汚染対策、担い手の確保と経営所得安定対策、国や県への要請事項などです。

これに対して市からは、放射能汚染対策については、市の最優先事項として引き続きしっかりと取り組んでいくこと、また、国の農業方針には、地方の声を国へ届けながら持続可能な地域農業のために取り組んでいくこと、国や県への要請ではPPP交渉や米問題などあらゆる機会をとらえて要請していくことなどが話されました。

平成26年度 岩手県農業委員大会が開催される

11月7日、都南文化会館にて平成26年度岩手県農業委員大会が開催され、伊藤会長ほか委員21名が参加しました。この席上で一関市は15名の委員が「永年勤続農業委員表彰」や、「農業委員会等活動表彰(各部門)」を、当委員会は、同農業者年金部門でその功績と活動により表彰されました。



大会は、「農業施策の充実に関する要請決議」「農業委員会組

織・制度改革に関する要請決議」

「PPP交渉等に関する特別要請決議」「農業委員会活動の強化に関する申し合わせ決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。

大会後は、高知大学准教授の緒方賢一氏から、「新たな農政改革と農業委員会の役割」と題し、特別講演があり、研修の良い機会となりました。

農業委員会委員 選挙人名簿登録申請書の 提出を

登録申請書は農業委員の選挙人名簿作成の基礎資料となる大切な書類です。

次の方は1月10日(土)までに申請書を提出してください。

対象Ⅱ平成27年1月1日現在市内に住所のある20歳以上(平成7年4月1日以前に生まれた方)で次の①②③のいずれかに該当する方。

① 10a以上の農地の耕作業務を営んでいる方(経営者)。

② 前記①に該当する方の同居の親族またはその配偶者で年間おおむね60日以上耕作に従事する方。

③ 10a以上の農地の耕作業務を営む農業生産法人の組合員、社員、または株主で年間、おおむね60日以上耕作に従事する方。

※申請書は12月中旬に農林連絡員(農家組合長)を通じて配布する予定です。組合未加入者の方には直接郵送します。

お問い合わせは一関市農業委員会へ ☎ 21-8692

平成27年
2月1日

2015年

農林業センサス

未来の農林業を育てる統計調査が
全国一斉に実施されます。

農林業を営んでいる皆様のとこに、
調査員が訪問します。調査へのご協力
お願いします。【農林水産省・岩手県・一関市】

農業者年金加入推進月間です

加入資格は、年間60日以上農業に従事する60歳未満の方で、国民年金1号被保険者の方であれば、どなたでも加入できます。

経営移譲年金受給者の方へ

農業所得の申告について経営移譲年金受給者のいる農家は、農業所得の申告を後継者名義で行う必要があります。受給者本人が申告すると農業を再開したとみなされ経営移譲年金は支給停止になりますのでご注意ください。(ほかに農協の組合員、農業共済関係等、後継者の名義となっていない必要があります。)

地目変更には「注意」ください

経営移譲年金受給のために後継者等へ貸した農地や、贈与税の納税猶予対象農地を農地以外(宅地、山林、雑種地等)に地目変更すると、経営移譲年金は支給停止となる場合があります。その場合は贈与税の納税猶予が打ち切りとなります。

お問い合わせは 一関市農業委員会へ
☎ 21-8692

農地賃借料情報

農地法の改正により、従来の標準小作料は廃止され、地域における賃借料の目安となるよう農業委員会が実勢の農地賃借料情報を提供することになりました。平成25年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10a当たり)は、以下のとおりとなっております。

1 田(水稻)の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	10,037円	16,850円	3,044円	1,214
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	10,699円	15,000円	3,360円	1,485

2 畑の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	6,274円	11,200円	3,000円	19
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	3,664円	6,483円	1,300円	46

備考

- ・今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考としていただくために、地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除した後で、全体集計しております。
- ・実際の農地の賃借には、賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めておりません。
- ・実際の農地の賃借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、および隣接する道水路等の状況を考慮して両方で協議の上決定してください。

編集後記

先日、参加した岩手県農業委員大会、一関市から15名の委員が永年勤続表彰や各活動表彰を受賞、誇りであり大変嬉しく思います。当日の講演は、高知大学の緒方准教授による「新たな農政改革と農業委員の役割」、私も農業委員として農地法申請、荒廃地パトロール、農業者年金加入推進活動など励んできましたが、いつの間にか二年と二ヶ月が経ちます。農業委員の公選制廃止が話題になる昨今、農業委員は、その地域にあつて地域のために仕事を、地域の皆さんから「地域の代表者」として送り出されたという信頼関係の中で活動を続けていくことの大切さを改めて深く感じました。今後とも地域をはじめ農業者の皆さんどうぞよろしく願います。

編集委員 三浦千エ子

農委だより編集委員
 編集委員長 千葉 綾雄
 副編集委員長 佐藤 繁
 編集委員
 佐々木 栄一、石川 誠司
 伊藤 弘志、三浦 千エ子
 齋藤 憲子、千葉 久壽郎

